



江府町報

4月号

発行者
鳥取県江府町
電話 江尾(代) 2211
編集 総務課
印刷 (有)富士印刷

江府町の人口 (3月31日現在)

世帯数	1,330世帯
人口	5,110人
(前月比)	20人減
(男)	2,476
(女)	2,634
出生	6
(男)	2
(女)	4
転入	29
(男)	14
(女)	15
転出	47
(男)	28
(女)	19
死亡	8
(男)	1
(女)	7

第160号

水稲育苗におおわらわ

今年も田植えが始まりましたが、町農協育苗センターでは、連日あのおとした苗が各農家へ出荷されています。

近年、労力の省力化にともない、機械による田植えがほとんどになりましたが、逆に同センターへの育苗申込みは増える一方です。今年、総水田面積四三二畝の一分にあたる四五畝の水稲苗が約二百戸の農家へ出荷されています。

今年、天候が良く発育も順調で、近年にない出来だということです。苗の品種は、ヤマホウシシが一番多く全体の八割。続いてホシヒカリ、トドロキ早稲、ヤマビコの順になっています。なお、この水稲育苗出荷は、五月下旬まで続けます。

▲町農協育苗センター

よい町づくり 建設事業

(一般会計)

昭和57年度

一般会計 予 算 二十五億円

予算編成にあたって

昭和五十七年度歳入歳出予算案を本議会に提出するに当り、提案理由を説明申し上げると共に、本予算を通じ行財政に対する所信を申し述べ、ご批判を乞ふ次第であります。

政府は本年度予算編成方針として、わが国経済の着実な発展と国民生活の安定。内外経済の情勢に対応しつつ景気の維持拡大。行政改革と財政再建。としております。

更に自治省財政当局の地方団体に対する地方財政見直しと留意点によれば、行財政の総見直しと合理化。財政の重点かつ効率配分。

健全財政と住民福祉の推進。

行財政改革の推進。

景気の動向と地方経済情勢に対する対応。

地方税使用料、手数料等財政収入の確保。

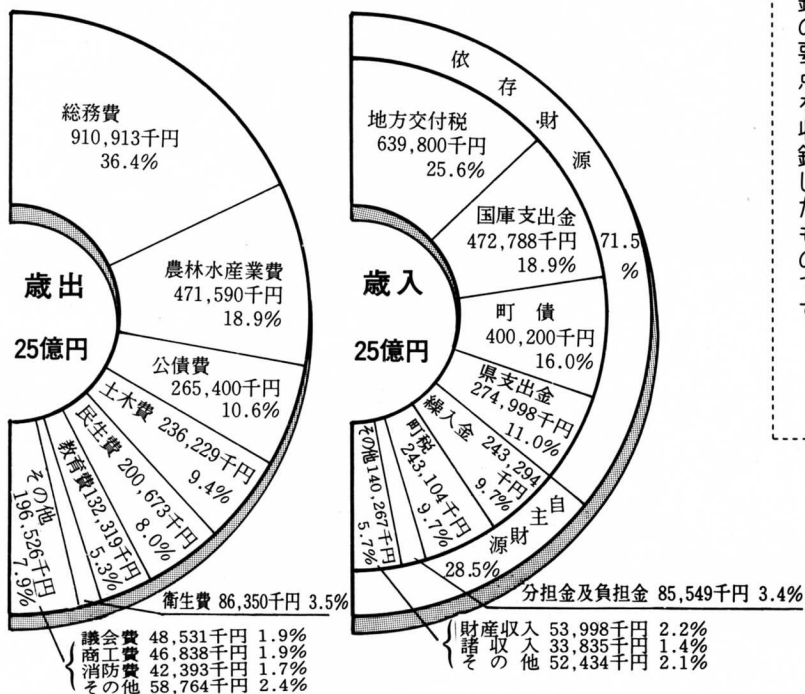
職員の給与水準の適正化と職員定数の計画的縮減。

投資的経費については住民生活の基盤となる社会整備。

等となっているのであります。

このような国の経済情勢並に地方団体の財政条件下に在って、本町の財政条件を視るとき、自主財源力の零細性は正に宿命的とも云うべき程でありまして、是は当面する行政改革に伴う国庫支出金並びに地方交付税見直しに対処するためにも、財政対策を急がねばならず、更に今後における所謂近代化社会の行政需要の増大と、社会資本の充実整備に対応するためにも、今こそ町財政力の抜本的確

昭和五十七年度予算が、三月定例町議会で原案どおり可決されました。この当初予算は、本町の今年度における経済や教育などあらゆる分野の見積りといえるものです。以下は、この定例会の初日、井上町長から述べた新年度予算案の提案理由と行財政方針の要点を収録したものです。



特別会計予算

国民健康保険		
歳入	208,186千円	
歳出	208,186千円	
簡易水道事業		
歳入	44,733千円	
歳出	44,733千円	
米沢財産区		
歳入	3,225千円	
歳出	3,225千円	
神奈川財産区		
歳入	200千円	
歳出	200千円	
江尾財産区		
歳入	885千円	
歳出	885千円	
住宅新築資金等貸付事業		
歳入	24,290千円	
歳出	24,290千円	
老人居室整備資金貸付事業		
歳入	12,094千円	
歳出	12,094千円	
障害者住宅整備資金貸付事業		
歳入	7,084千円	
歳出	7,084千円	
索道事業		
歳入	130,000千円	
歳出	130,000千円	

事業会計予算

南大山国民宿舎山荘甘酒茶屋	
収 入	110,711千円
支 出	110,711千円

諸繰入	三、八五
繰越入金	三、〇〇〇
繰入金	二、〇〇〇
寄附金	一、〇〇〇
財産収入	三、〇〇〇
使用料及手数料	四、七〇〇
分担金	八、五〇〇
その他の歳入	二、〇〇〇
支 出	三、八五
国庫支出金	二、〇〇〇
国庫補助金	一、八五〇
国庫交付金	一、〇〇〇
国庫交付金	一、〇〇〇
自動車取得税交付金	一、〇〇〇
自動車重量税	一、〇〇〇
地方道路譲与税	一、〇〇〇
自動車取得税交付金	一、〇〇〇
国庫補助金	一、〇〇〇
国庫交付金	一、〇〇〇
国庫交付金	一、〇〇〇
国庫交付金	一、〇〇〇

明るく住み

54パーセントは

立を期し、まず本町百年の発展の基礎を固めるべき時と存じます。すなわち、目下施工中の中国電力俣野川揚水発電所の建設は、国家的にも、地方的にも、エネルギー開発を水力に求める上からも、特に本町の抜本的財政基盤確立のためにも、極めて重要な事業としてこれに対応し、この計画の地元折衝に当っては、地元住民の利益守護と、公害対策については誠実をもってその万全を期し、全力を傾けて地元合意に努力して来たところであります。

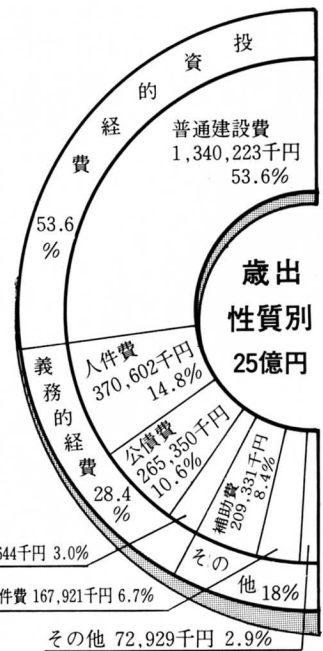
私は、最後までこれを貫き、先づ地元住民も、地元町の行財政も、中電の電源開発事業も、国家的にも、地方的にも、共に繁栄し、共に発展する基礎づくりの役割を果たす事業として完工するために努力の限りをつくす所存であります。本年度予算においては、本町の行財政見直しを行い、極力圧縮に努め、二五億円の予算を編成した次第であります。

●歳入
歳入総額 二五億円

町税総額 二億四、三二〇万四千円

内訳 金額(千円) 構成比%

固定資産税	一、〇〇〇	三九
町民税	一、〇〇〇	三九
自動車税	二、〇〇〇	〇二
軽自動車税	一、〇〇〇	〇二



たばこ消費税	一、八五〇	〇七
電気税	三、〇〇〇	〇九
木材引取税	五、〇〇〇	〇二
特別土地保有税	四、五〇〇	〇二
地方交付税	六億三、九八〇万円	
構成費	二五・六億	

起債 四億二〇万円

内訳

過疎債	一、七〇〇千円
同和事業債	一、三〇〇千円
厚生施設事業債	一、七〇〇千円
公有林事業債	四、五〇〇千円

●歳出
性質別構成は、右図のとおりですが、構成を分析して見ますと、人件費の構成は予算総額に対し一四・八パーセントとなっております。又、普通建設費の構成は五三・六パーセントとなっております。

すなわち、一般経常費の削減には特に意を用いて参りました。

しかし、公共建設事業は勇敢に実施し、一時もって近代社会の住民生活環境整備及び産業基盤の近代化を推進し、一時もって地域経済の育成と安定成長に資すべく念願するところであります。

本年度の本町予算の伸率は、九四・三パーセントありますが、これは、昨年度予算が周辺整備事業及び中電及び中電の協力料関連の予算編入等のため大型化していた事と、本年度は行財政の見直しのため圧縮基調によるためであります。

しかしながら、今直面している経済不況の実状に対処し、地域経済の育成に役立つ普通建設費の執行に留意しながら、慎重に対処してまいる所存であります。

一 総務の重点行政一

- 集落経営基金交付金
- 行政調査会
- 集落行政座談会
- 情報活動(町報、週報の充実)
- 合併30周年記念事業
- 町民体育館しゅん工記念事業
- スポーツ公園管理運営

総務費

9億1,091万3千円

総務管理費

八億七、二七五万三千円

町長、町議会議員及び各行政委員会委員、並びに非常勤特別職員及び区長の報酬の改訂を計上いたしました。

この内、町長及び議会議員の報酬につきましては、鳥取県西部町村特別職報酬審議会の答申を受けて計上したものであります。

財産管理費 一八、五三四千円
 徴 税 費 二六、六七三千円
 交通安全対策費 一、七五四千円
 消 防 費 四二、三九三千円

(内 訳)

小型動力ポンプ(六機六、六〇〇千円)
 防火水そう(二基三、九〇〇千円)

町民と情報交換

行政調査会

この行政調査会についてはすでに規則は制定されておりますが、本年は委員を委嘱して、町政について町民の要望や意向など諮問し、町政策立案について慎重を期し度く存じております。

この種の町長の諮問機関の設置は町行政上当然のことであり、また、運営の成果を期しているところであり、

運動公園管理運営

スポーツ公園は住民生活の中にまづ住民全体の自然と空間を造成するものであり、それは住民全体の広場であり、自然でありますから、誰もが自由に公然の気を養う場であり、

なお、スポーツ施設にあつては、使用規程に基づいて使用に供し、



▲整備の進む白住運動公園

スポーツを通じて社会体育を振興し、各自の健康増強管理をなし、もって住民福祉の増進を図るものであります。

従つて、これらの幅広い目的を図るために専属の管理機構を設け、適切な運営管理に当る方針であります。

集落経営基金の有効利用

有効利用

昨年度制定いたしました集落経営基金条例により、町長主管の下に基金を預託し、その果実を毎年交付することにより集落の福祉、産業、生涯教育、文化、厚生、な

ど集落の自主経営と、ボランティア活動を助長し、安住の集落社会の育成を図らんとするものであります。

この基金制度の創設は、本町の社会政策として歴史的意義ある創設であります。この運営こそ将来にわたつて集落社会の適切な効な基金制度となるよう努力して参ります。

本年はこの基金の交付金運用の第一年度に相当致しますので、全町集落の適切有効な交付金運用を切望するところであります。

情報活動の強化

情報化の時代に処して、町政の実状を詳細に住民に報告することは最も重要な事項でありますので、これを強化充実して参ります。

合併30周年記念

本年は合併三十周年に相当いたしますので、これを記念しこれまでの建設に感謝を捧げ、町百年の将来を案ずる機会とするため、記念式及び記念の事業を実施致し度く存じております。

同和対策費

九、四九四万三千円

地区道橋新設費三、〇〇〇千円

地区内排水路改修費 二、〇〇〇千円
 地区内外燈新設費 一、八〇千円
 明道児童館運営費 一、六五五千円
 生活相談員設置費 二、三〇〇千円
 同和教育推進協議会費 一、〇〇〇千円
 同和对策研修育成費 一、五〇〇千円
 全同教・県西部協・対策費 一、〇五五千円
 高校大学等進学奨励費 六、九二二千円
 住宅新築資金貸付事業費 二、二〇〇千円
 農 道 新 設 費 三、二〇〇千円
 後進地域経営改善事業費 六、三三三千円
 農業近代化資金利子助成金 七、〇千円
 同 和 教 育 費 三、〇四四千円
 同和教育集会所費 九、七七七千円

同和問題は基本的人権にかかわる問題であり、自由と平等の原則にかかわる極めて重大な社会問題であります。

否社会問題というよりも、国民的命題であり、国及び地方公共団体の責務であります。

ために昭和四十四年に「同和对策事業特別措置法」が十か年の時限立法で制定され、更に三か年の延長の中で事業を実施して参りましたが、本年三月を以てこれも時限となりますので、これに代る措置法として「地域改善対策特別措置法」の制定を期して運動を展開して参りましたが、更に基本法の制定の実現を期さなくてはなりません。

本町におきましても、事業面においては環境改善の事業及び生産

条件改善の事業等引続いて実施して参りましたが、特に同和教育の推進については、全町民の自覚と責任に訴え、自分自身が自分自身に同和教育の徹底を図る全町運動を強力に推進致し度く存じます。同和教育は知識ではない。今や意識確立の時である。そして今や実践の時である。と存じます。

意識も実行も自己自身の問題であることに思いをいたし、何人も自己自身と対決して自己改革を成し遂げることが同和教育の実践だと思ふのであります。この運動を広く展開して参ります。



「西部同和問題研究会で、同和教育の発展を期す出席者土井之内会館」

費 生 民
2億67万3千円

民生福祉の充実

社会福祉基金

本町の社会福祉基金は、昭和三十七年に創設して来たものであります。自來育成して現在二、〇五〇万円の基金に育っておりますが、本年本会計を以て二五〇万円を積立て基金二、三〇〇万円の原資に育成いたします。

この基金によって生まれる本年度の利息一三六万円は、本会計を通じ、法外援護の福祉対策を一層充実して参ります。

社会福祉総務費

一、八七二万七千円

老人福祉費

一、〇〇一万二千円

人間尊重は現代の常識であります。老人問題は依然として深刻な問題を残しております。それは老人問題は唯に物質のみで解決出来る問題ではないからであります。従って、老人問題は末端の地域社会の人間愛、社会愛の心の社会こそ安住の境地であります。

しかし老人も又自分の健康は自

社会教育明德学園

一七三万七千円

分の責任管理の精神力と、社会愛に徹する努力が心要と存じます。本町の六〇歳以上の高齢人口率は次第に上昇して二四%を占める状態となりました。このことは寿命が伸び、長生きすることは人生の最高の喜びであります。反面出生児の減少による高齢人口率上昇の現象も手伝っている面もあるようであります。いづれにしても高齢者対策の重要な所以であります。

老人福祉明德学園

一一三万九千円



▲手芸に励む老人たち

身体障害者福祉対策

学としてなくてはならぬ学園であります。

老人福祉と老人学級、社会教育をもち合せ、老人の自発参加を求め、心身共に若返りと健康管理を基調とした老人の集団学習の明德学園は、もはや本町の老人大

「完全参加と平等」を主張した一九八一年の国際障害者年を契機として、本町ではかねて障害者福祉協会の活動を援助して参りました。特に本町では昭和四十七年創設の重度心身障害児者養育手当金制度、或は重症者福祉電話の設置、又昭和三十七年度創設の社会福祉基金などを以て対策の充実を図って参りました。

本年は本県で開催予定の全国身障者福祉大会及び本町で行われる予定の日野郡身障者スポーツ大会を支援し、身障者の社会参加を援護いたしたく存じております。

母子父子福祉費

六六五千円

人生の大半を孤独に耐え、女手一つに支え、子の養育に専念して来た人生は表現を越えきびしいものがあります。行政はこれに温かい社会愛と希望を提供しなければなりません。

本年度は母子家庭医療費扶助、母子資金利子補給、小中高入学、中卒就職支度金助成など母子、父子家庭の心情と生活を支援していく所存であります。

高齢者対策に対する心構え

老人とは、心身共に次第に老衰してゆくことであります。それは次第に実社会から隠とんすることであり、生活力も体力も次第に衰退することであり、暑さ寒さが直に身にこたえることでもあります。

老境とは、何びとも必ず到達すべき境地であります。その心情は人生の上において極めて淋しい境地であります。

誰もが到達すべき老境に、希望と人間愛、社会愛の灯を点す行政を確立しなければならないものと確信するところであります。

児童福祉施設費

4,059万8千円



▲元気いっぱい遊ぶ園児たち

江尾駅保育園間のバスの運行は、鉄道踏切り及び国道横断など園児の交通安全を守るために行っているものでありますが、当初保護者と町と切半協同で費用負担を致して来ましたが、昨年度の料金アップ分については町負担といたして来ました。保育料については本年度分は国の規準より約五割減としてランクを再編成し、母子家庭、父子家庭に対しては半額免除の措置をとった次第であります。

労働費

二二六万一千円

本町の勤労所得者（所得税源泉徴収対象者）の健康増進並びに生活対策を進め、一層快的な労働意欲増進の一助のためにもこれを支援し、対策するものであります。

衛生費

八、六三五万円

衛生対策は市町村行政の最も大切な行政の一つであります。それは直接住民の生命と健康管理にかかわる問題であるからであります。すなわち、まず予防衛生事業を益々徹底して参ります。如何に科学が進み、医学が進歩したと云つても、この現代医学の恩恵を自分自身のものとして享受するためには、まず検診に参加しなければなりません。

本町においては、当然結核対策を始め、老人検診、成人病検診、胃ガン検診、婦人検診など各種検診を実施し、早期発見に努めております。進歩した現代医学を以て



▲食生活改善講座で勉強に励む受講生

すれば、早期発見はガンと云えども制圧可能の立証されているからであります。しかしながら、この最も重要な検診の受検率が六〇％前後から上らない状態であります。本年はこの各種検診の重要性を訴え、全町の理解を求めたく存じております。また衛生行政は、平素から住民生活の健康化を図らねばなりません。保健婦活動を通じて健康管理の指導を進め、食生活改善、健康基本調査、健康相談など推進して参ります。



▲し尿処理施設増設工事の完成予想図

衛生施設組合負担金

二、〇二八万八千円

- 予 防 費 六、八八九千円
- 母子衛生費 六三〇千円
- 健康推進費 一、二九五千円
- 婦人健康対策費 一、四〇三千元

日野町、江府町、日南町衛生施設組合の本年度予算は四二一、一〇〇千円を計上、本町の本年度負担金は二〇、二八八千円でありま

す。組合の懸案としておりました処理施設の増設事業は、昭和五十六、五十七の両年度の継続事業とされ、本年度はこれを完成し、処理能力を三十割に増強いたします。

じん芥処理費

一、五八六万二千元

じん芥及び不燃物処理につきましては年々処理量が増大し、収集地域も広めて参りましたが、更に全町域の処理を実施し、環境衛生の実を上げて参ります。

なお、農家集落の農業廃棄物処理のための「灰焼場」につきましては、昭和四十九年度以来町単独の高額助成を続けておりますが、利用度は極めて高く既に更新期に入っている施設もありますが、私はこの所謂江府町方式の「灰焼場」の農家集落における実状に合致した簡易処理場として設置活用を提唱するところであります。

水道整備費

本町における簡易水道普及率、昭和五十六年度川筋地区水道の完成によって九五・二割に達しておりますので、今後更に充実保管に努力して参ります。

農 林 水 産 業 費

四億七、一五九万円

山の国江府町

森林植栽を一千町歩達成

農 業 費

四億八四四万六千円

日本農業にとって水稲作の減反政策というのは、米の需給調整上とはいいながら極めて深刻な問題であり、しかし事実避けて通れない問題であります。

しかし、その米の減反農地は転作を以て新農業を拓くべしといつても、本町のごとき中山間地の積雪地帯に在つては、その作目の上において、又水田の畑地転用の地質及び排水条件において、又労働生産性において、いずれも悪条件のため転作目の決め手が見当たらないのが事実であり、又その作目も伸び悩んでいる状態であります。

本年度におきましては、昨年の一・二・五の転作目標に対し、昨年の全国的減取のため微調整にとどめた結果二・八の減を減じ、一〇九・七の減を実施することになり

ました。尚売渡限度数量は二五、七三七俵とし、昨年対比一六〇俵増となっております。

この米の生産調整関連の政策は、米作農業から見れば如何にも反農政策であり、しかしながら米の需給のバランスが崩れ去り、生産過剰の状態が累積するとすれば、しかも国民食糧と米作農業を守る食糧法下としては、窮余なから止むを得ぬ措置である訳であります。

更にこの状態は臨時的な生産調整ではなく恒久的に続くものと覚悟しておかねばならないし、なおその上に米価は必しも騰らない、むしろ低迷を覚悟しておいた方が間違いがなさそうであります。

このように農業を取り巻く条件は極めて深刻であります。なればこそ、この悪条件を先刻承知して逸速く転作、水田利用再編、畑地経営、複合経営形態の案出育成を図ることが賢明で、議論を越えて

新農業時代に対処することこそ重要と思考するところであり、誤解があつてはなりませんので申し添えさせていただきます、もちろんわが国の国民食糧確保と日本農業及び農家の農業経営発展対策上の農政と施策については、強く国政に要求してゆくことは当然のことではありますが、しかし米の生産過剰の問題は、言い方を替えれば米の消費過少でもある訳で、これらは政党的政策で一変出来るものでもありませんし、外国の農産物の侵攻だけが原因でもなく、パ

ンが米を締め出したというものだけでもない、それは現代の国民生活における食生活の構造変化があります。しかも現今のわが国の食生活の栄養価は満配の条件を備え、これ以上米に対する依存度は急増しないという判断は定説となつて来ております。

このように農政とか政治的主張とは別に、国民の食生活の構造変化に敏感に対応して、農業生産を

進めることは農業及び農家として当然大切なことであるからであります。

農業振興費

三、一四二万八千円

- 野菜生産団地育成対策費 一、五六千円
- 水田利用再編計画促進費 一、二六千円
- 水田裏作改善対策費 三、四九千円
- 水田転作促進対策特別事業費 三、〇五千円
- 梅林団地造成対策費 五〇〇千円
- 被害農業者経営資金対策費 一、三三〇千円
- かんがい排水事業費 一、五七〇千円
- 農道整備事業費 一、七〇〇千円
- ほ場整備事業費 一、五〇〇千円

畜産振興費

三、三二万円

- 家畜導入利子補給 一、二九千円
- 酪農経営維持対策費 五五〇千円
- 水田転作肥育牛対策費 二七千円
- 肉用牛飼育対策費 一、五〇千円
- 子牛互助会対策費 四〇〇千円
- 放牧経営追求事業費 三〇〇千円
- 放牧経営を追求して徹底的な放牧方式の限界を究明し、その方式を今後の経営に生かしたいと念願しているのであります。

すなわち、五月から十一月月上旬までの長期放牧を行うことと、その間の病虫害等健康管理並びに繁殖対策及び放牧牛の栄養対策等の措置を含め、放牧方式の定着と、二頭飼育農家の増加を図りたく、昨年来試験放牧を実施しております。

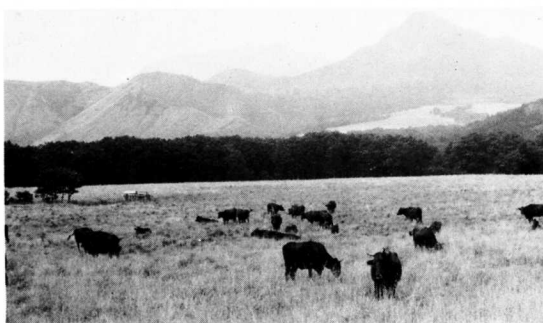
同和対策事業費

一、二九六万一千円

同和事業をもって農道整備事業一、二、二一〇千円を計上、農業条件を整備し、経営改善資金利子補給六七三万円を計上し、農業経営の近代化を進めるものであります。

57年度新嘗祭献穀

- 献穀 精米
- 献穀奉仕者 妹尾 治夫
- (西成)



今年も放牧試験が行われる瓜菜沢放牧場

農村基盤総合整備費 六、二〇千円
広域農道負担金 七、〇六千円

山村振興対策事業費

七、四七二万五千円

第三期山村振興対策として、昭和五十六年度から向う五か年間継続して各種山村対策事業を実施するものでありまして、本年度においては、水路改修工事外六件の工事請負費六七、三〇〇千円を計画し、農業条件整備及び集落環境の整備を行い、農村基盤の近代化を図るものであります。

地域農政特別対策事業

二、三〇五万八千円

農地造成一五畝を実施し、高冷地野菜団地の育成強化を図るものであります。

林業費

六、三一四万四千円

町行造林費

四、七三三万四千円

本町は昭和三十七年度から長期造林計画を立て、逐年造林施策を実施して参りました。

他に公団造林の施策を導入して、森林造成を続けて参りました。

本年度におきまして一九畝を新植する計画であります。本年度計画を実施いたしますと、



▲造林された山(助沢地区で)

町行造林 四三八・〇畝
公団契約造林 三〇四・七畝
県行契約造林 二七八・四畝
合計 一、〇二一・一畝

これは、正に計画樹立以来二十年にして、一千町歩の森林の植栽を成し遂げた訳でありますので、今後はもっぱら撫育管理に留意し、山国江府町の夢を将来に育てたく存じます。

林道改良事業費

一、〇〇六万五千円

以上農林事業費総額四七一、五九〇千円を計上いたしました。この農林予算の構成比は一八・九を占めておりますが、今後農林経営の振興と近代化を進めて参る所存であります。

昭和56年中町民所得推定の内訳 (単位千円)

総所得合計		6,934,554
農業所得		1,208,124
産子肥牛牛乳高加椎葉養花山わほ白転木そ勤給賃山技そ営資預金土地そ受恩国扶そ	米(24,393俵)	442,379
	牛(607頭)	209,513
	牛(60頭)	24,000
	乳(374,248kg)	40,754
	く(53頭)	7,853
	根(331,740束)	268,386
	菜	7,847
	り	12,000
	こ	30,031
	蚕木他(17,772kg)	4,018
	の(1,680kg)	420
	他(4,530kg)	5,200
	び(13,500kg)	4,000
	草(28,100kg)	6,036
	葱	22,688
	材	52,999
	他	60,000
	所得	10,000
労働所得		4,139,430
賃貸所得		3,514,430
山林所得		450,000
労働所得		85,000
賃貸所得		70,000
山林所得		20,000
労働所得		350,000
賃貸所得		570,000
山林所得		510,000
労働所得		30,000
賃貸所得		30,000
山林所得		667,000
労働所得		194,000
賃貸所得		355,000
山林所得		98,000
労働所得		20,000
賃貸所得		
山林所得		

町民所得

本町の町民所得につきまして、農業所得、勤労所得、営業所得など、例年のごとく推計を試み、住民経済の動向を伺い、町民生活の安定度を尋ねることは行政上重要なことでありますので、本年も右表のとおり、推計を試みしましたので、この機会に報告いたします。

これを前年対比(昭和五十五年所得)を見ますと、住民総所得においては(八六・三二%)

これは昭和五十五年は、中電関係の土地買収による臨時所得の年でありましたためであります。農業所得においては 一〇三・二六%

勤労所得においては 一〇九・三六% この推計から見ますと、農業所得の中の産米代金が前年対比一億二千万程増加しておりますが、これは五十五年が冷害のためであり、高原大根は反対に六千五百万円減収となっておりますが、これは五十六年は増収しているのに、価格変動のあおりを受けて、代金は減収となっております。

この価格変動には原因要素もありませんが、昨今高冷地野菜にも全国的産地の競争が激しくなってきたる事をまず覚悟していなければなりません。

更に子牛、牛乳の畜産物についてわずかながら減少しております

が、これは和牛農家、酪農家がわずかに減ったからでありまして、私は今こそ断じて和牛酪農の経営対策を育成し、畜産振興を図りたく念願いたしております。それは広大な山地草原や農地を持つ山村地域においてのみ、今後の畜産経営の合理化が可能と思われるからであります。

なお、農業所得と勤労所得を合算すれば五、三四七、五五四千円となり、両所得ごとの構成比は

農業所得 二、六三三、四四〇千円 三、五九三、四四〇千円 四、三三三、四四〇千円 毛四、三三三、四四〇千円 一〇〇、〇〇〇千円 一、〇〇〇千円程度となります。

商 工 費

4,683万8千円

観光と産業の接点の町

商工振興対策につきましては、特に活気ある経済活動を興こすことが大切であります。

すなわち、住民経済に波及すべき事業及び公共事業の実施、更には地域開発事業の実施及び農業振興等、すべて活気ある住民経済の育成にかかわるものであり、商工振興の基盤造成でもあるのであります。

町としては、商工会の活動を育成するため一、六〇〇千円を助成し、更に商工振興開発研究費二〇〇千円を助成し、中小企業の経営指導の強化を図る所存であります。

制度金融
 小口融資 九〇、〇〇〇千円
 店舗改善資金 七、〇〇〇千円
 同和小口融資 二四、〇〇〇千円
 計 一二一、〇〇〇千円
 最近の経済不況下にあつて、制度金融の運用は極めて有効適切な制度であると共に、反面容易に利用されがちであります。
 これは有効と危険と両面を持つ制度であるが故に容易な制度金融が却つて失敗の原因を作ることと思ひ、今後制度金融の取扱いにつ

いて充分留意して、この制度金融が正確に適正に運営され、真に業界各自の経営に有効な成果を上げる金融運営を指導管理する方針であります。

観光費

一、二七〇万八千円

本町の観光行政の基本として堅持しているところは、まず自然保護であります。

自然そのものが本町の観光基盤



▲町観光コースの1つ「かまこしき探勝路」

であり、又本町の産業基盤でもあるという見識を堅持してまいりたいものと存じております。

雲海の中に連なる緑の山波、

樹林の中に沈んで岩走る溪流の音、裏大山の四季の移り変る自然美の中に悠々草を喰む放牧牛、そして高原大根の広畑など、正に本町の自然は観光と産業の接点の町として守られてゆくべきものと存じております。

本町は鏡ヶ成と大平原の両サイドに公営の国民宿舎を設置し、他は一切の町外資本による施設開発を許るしていいないことは、本町の見識であると存じております。

しかしながら、近代社会の観光は更に重要な要素があります。

それは本町の持つ歴史の伝承と文化財の保護と鑑賞、有形無形の文化財、天然記念物、名勝古蹟の発掘保存など重要であります。

本町におきましては、その文化的、学問的水準に照らし、適合す

るものに対しては極めて積極的に対処して来ているところであり、それは、公費を以て対処することでありますから、慎重に対処すべきは当然であります。

土 木 費

二億三、六二万九千円

道路橋梁総務費 一四、八八千円
 道路維持費 七、三四七千円
 道路新設改良費 一六三、〇七千円
 道路整備事業費 三九、三六千円
 交通安全施設整備費 六九千円
 中国横断道路対策費 八八千円

河川改良及び道路新設

日野川白住護岸は、継続施工がなされ、町道久連、洲河崎、下安井線の拡幅改良を実施して参ります。

白 住 大 橋

白住運動公園に通ずる白住大橋の新設は、昭和五十六年度から施工中であります。この事業は過疎代行事業の導入によって実施しているもので、これに関連して白住地内町道改良も実施する方針であります。

企 画 関 係

電源交付金事業費

674,688千円

町民総合体育館建設事業費	517,480千円
集会所建設事業費	57,150千円
町道整備事業費	40,710千円
有線放送施設整備事業費	5,260千円
農道整備事業費	54,088千円

第3期山村振興事業費との合併事業

多目的研修集会施設新設事業費	55,422千円
防火水そう新設事業費	14,731千円
水路改修事業費	4,060千円

水力発電施設周辺地域交付金

本年度から15年以上経過の施設所在市町村に交付金の制度化により、本町においては、年額300万円を7か年にわたり交付を受けることとなりましたので、有効な整備事業に活用してまいりたく存じております。

学習社会の建設を

教育費

1億3,231万9千円

教育総務費 三、五三三千元
 小学校費 四、七三三千元
 中学校費 三、七三三千元
 寄宿舎費 九、〇〇〇千元
 社会教育費 三、二八六千元
 公民館費 九、三九六千元
 文化財保護費及び歴史民俗資料館 一、三三九千元
 明德学園費 一、七七〇千元
 同和教育費 三、〇〇〇千元
 同和教育集会所費 一、九七〇千元

学校教育は、基礎教育でありまして、義務教育の充実については、教育委員会において努力いたしているところであります。

社会教育についても同様であります。近代社会においては、生活それ自身が日々の学習なしでは暮せなくなつて来ております。それは日進月歩に機械文明は進み、技術は革新を遂げて進み、最早日

・小学校費	43,793千円
児童数	300人
児童1人当り	145,977円
・中学校費	26,704千円
生徒数	157人
生徒1人当り	170,089円
・学校給食費	14,144千円
小・中学校	513人
児童生徒数	
1人当り	27,571円
・社会教育費	22,188千円
町民人口	5,130人
町民1人当り	4,322円
・社会体育費	7,630千円
町民1人当り	1,486円

本町の教育費の分析は次のとおりです。

々の学習なしでは農業機械も施設、園芸も病虫害駆除も手工業も営むことは出来なくなつて来ています。又これ程氾濫する情報化社会で、日々の学習なしでは昨年来町の主権する食生活長期研修会を契機として、最近町の婦人会、主婦の中で食生活の見直しについて熱心に学習がつづけられております。このように今や社会教育は、正に生涯教育として、まず行政の責任であり、又住民自体の生活防衛の問題でもあり、又社会全体の教育環境の問題でもありますので、唯に教育行政のみの分野でも無くなつて来ていると判断して、まず町政の責任において、又一社会人としても大いに挺身して、互に学習社会の建設を急ぎたい所存であります。

▶ 2月18日、中国横断自動車道江府町対策協議会の結成総会で建設計画など説明



交通開発で

産業と文化の発展を

中国横断自動車道路

本道路についてはかねて計画が進められており、このルートの実地調査、測量など数次にわたつて実施されて来たところでありますが、この道路の県内延長（米子ー江府岡山県境）は二七・四キロでありまして、この内江府町地内延長は一一・一キロでありますので、県内延長の四〇％が江府町地内を走る訳であります。

ただいま今方線の設計に基づいて関係部落に説明会を一応終つた段階であります。本年後半から地元に対し具体的な設計協議を行うことになるものと予想しているところであります。

町としては問題点を解明し、まず地元集落及び地権関係者の犠牲保護に最善をつくし、しかし又横断道の公益性についても理解を求め、将来の交通開発を通じて地域の産業、文化の発展を期したく念願いたしております。

下蚊屋農業ダム

昭和四十五年からこの計画について対応して来ましたが、この間地元の意向を守り、特にこのダム建設が水源地域住民の生活と農業生産の将来にとつて如何に関係があるのか、その功罪はどうなのか、又水源地域に対する農用地補充対策、関連する農業基盤整備、環境対策、補償対策など農林水産

省並びに県当局に対し、具体案の提示を求めて来ましたが、是等についてもある程度見通しも得ましたので、これから地元集落と話し合いに入る段階となりました。

しかしながら、この問題は最も慎重を期し、水源地域は当然及び地元町の町民の将来のために万全をつくして対処する方針を貫いて参ります。

繁栄する発電施設に

揚水発電及びダム発電計画

揚水発電のダムサイドに抱き込む形で二、一〇〇瓩の発電計画については、すでに承認となつておりますが、地点の状況から見て不安も無く、これによって災害も予想されるものではありませんので問題はありますが、時節柄エネルギー開発の見地から適当な計画と存じております。

この計画に対する水力発電施設周辺地域交付金の問題については、目下通産省に照会旁々要請を行っているところであります。

なお、揚水の本工事は、順調に進行しておりますが、本発電所の工事が、折柄経済不況下においても、地方経済の好転のためにも、又本町将来の財政基盤の確立の上からも、誠意をもって協力し、施設当局と地元住民共に繁栄する発電施設として完工するよう支援いたしたいと存じております。

同和教育につきましては、徹底を期さなくてはなりません。同和教育の学習は、即実践に移していくことが大切と考えます。

要は、一人一人が自分自身のこととして徹底を期したく念願するところであります。

明徳学園費 一、七三七千円

(民生費明徳学園 一、二九九千円)

明徳学園の運営につきましては、老人学級と老人福祉を吻合させた人間愛を基調とするものでありまして、本学園の開学の精神とするところは、何人も到達すべき老境に希望の灯を点し、高齢者自身も自ら活力と健康を守ること、町はこの学園を守ってまいります。

保健体育費

三九一万八千円

社会体育が盛大になることは、近代社会の文化性の上からも当然

であります。本町においては、いよいよ町立の運動公園を建設し、住民生活の中に公然の気を養う広場を設け、体育施設を通じてはスポーツ振興並びに健康管理、そして住民福祉の増進を期するものであります。

60年国体を

成功させよう

国体準備費

三七一万二千円

第四十回国体大会は、昭和六十一年に本県で開催されることに内定し、本町は山岳競技開催町として予定されておりますので、その国体準備費を計上し万全を期してまいる所存であります。

学校給食費 一、四四万四千円

＝国民健康保険事業＝

見込世帯数	650世帯
被保険者数	1,950人
保険税総額	56,551千円
1世帯当り保険税平均	87千円
1人当り保険税平均	29千円
療養費総額	255,443千円
1世帯当り療養費	393千円
1人当り療養費	131千円
国庫負担金	101,971千円
一部負担金	91,921千円

国民健康保険会計の内訳は、上表のとおりであります。

保険税相当額は、61,551千円となり、これは、被保険者1世帯当り平均94,694円となりますので、これを減税するための本会計で町負担500万円の繰入れを行い、1世帯平均保険税87,000円といたしたものであります。

南大山国民宿舎

山荘甘酒茶屋

運営事業会計

事業収入予定 二〇七千円
 宿泊者見込数 一〇〇〇〇人
 休憩食堂利用者見込数 四、八〇〇人

町営甘酒茶屋の設立の意義は、常に主張しているところでありますが、唯に観光営業の目的のために設置したものではありません。江府町は、国立公園大山と蒜山の中間地点にあり、二本の有料道路と一本の県道が接続して走っており、この道路添いはほとんど国立公園地内であります。

この裏大山の自然美を持つ江府町として、この地域に自然美を売り物とする町外県外の大資本の施設開発が進攻してくれば静寂な自然は破かいしつくされるを思い断じてこれを防衛して来ているところであります。

しかしながら、この裏大山の大

自然を求めて、その静寂を訪れる旅行者のために、又本町の住民のためにも、又町外資本侵入防衛のためにも、この国立公園の自然美を持つ本町として、この程度の公営施設は必要であります。

特にこれを基地として、観光産業と観光農業の育成を図り、殊に地元住民の休養の場とするためにも、これを拠点として、自然休養村事業を導入し、これとマッチさせ観光と産業の両立運営を図る所存であります。

なお、甘酒茶屋会計は、昭和五十六年度事業において、本会計に二五〇万円を繰入れる予定に致しております。



▲甘酒茶屋一円

索道事業

スキーリフト建設費

一億三千万円

南大山高原のスロープは、まだらかな緩斜面はスキーの初歩向と、上部の急斜面並びに段差斜面等、

上級向けの斜面を含む変化に富むスキー場として以前より注目されて来たところであります。

この地に甘酒茶屋の施設を見てより南大山スキー場として開発し、すでに県体スキー大会及び県下中学校スキー大会二回の開催経歴を持つております。更に米子鉄道管理局では、親子スキー場の愛称をもつて、積雪量の報導扱もなされた経過もあるスキー場であります。

更に伯備線並びに国道一八一号線より最短の地点に在り、特に最近大山スキー場の飽和状態に達している状況から、一層この地にスキーリフトの設置の要望が県内外から強く、町としてもこの実状を踏まえ、その実現を期してすでに一、二年を経過してまいりました。

これは、大平原地区は国立公園計画の単独施設地区でありまして、スキーリフトの設置もすべて国立公園計画の変更がなされなければなりません。

公園計画の変更はおよそ二年二回の中央審議会を経なければなりません。これらの手続きは目下進行中でありまして、本年度中に施工可能の見通しにより、本年冬期運行の予定となりました。

この事業は公営企業に準ずる独立採算方式で運営いたしますが、内容は甘酒茶屋の経営とタイアップした合理的運営を図りたいと存じますと共に、特にこのリフト経営は御机部落の民宿経営及び観光開発にも大いなる役割を果すものと思し、又その点にも配慮してるところであります。

晴れの叙勲

昭和57年春の生存者叙勲が4月29日に発表されましたが、本町では、江尾の手島祐氏が受章の榮に浴されました。

勲6等単光旭日章

手島 祐きん (72歳)



昭和25年から旧江尾町長、28年から2期江府町長、県町村会会長、西部町村会会長など歴任し、

地方自治の発展に貢献。また、37年から44年まで鏡ヶ成国民休暇村の支配人、46年から昨年6月まで県国民健康保険団体連合会常務理事としても活躍されました。

献穀田で

種まき式



種モミをまく、妹尾さん夫婦と関係者

ことしの献穀田の播種式が四月十四日、西成の妹尾治夫さんの水田で富本賢日野地方農林振興局長、住田泰日野農業改良普及所長、井上町長ら五十人が出席して行われました。この播種した種モミは、五月二十二日に献穀田に田植えし、十一月二十三日皇居で行われる新嘗祭に献上されます。

この日は、降りしきる雨の中で神事が行われた後、妹尾さん夫婦ら関係者の手で、十平方尺の苗代に「日本晴」の種モミ九百粒がまかれました。

本町で献穀奉仕が行われるのは八年ぶり、最近では昭和三十三年の福田岩雄さんの米、四十九年の加持谷達夫さんの粟に次いでのことです。

町職員の異動

町では、このほど次のとおり人事異動を行いました。
() は、旧任

(四月一日付)
町課室設置条例の一部改正に伴い、「企画室」を「企画課」に改め、電源関係事業の企画及び施設の管理に関する事項を加え、「総務課」に広報、情報に

関する事項を加えたための異動
企画課長 (企画室長) 藤原 要

企画課長補佐心得兼周辺整備係長 (企画室補佐心得兼周辺整備係長) 加藤 武夫

企画課周辺整備係 (企画室周辺整備係) 主事 宮本 正啓
企画課企画係兼総務課広報係 (企画室企画広報係) 主事 白石 和恵

・新任用

(四月一日付)

同和对策室対策係兼南大山村宿舎甘酒茶屋 (臨時雇) 主事補 矢下 慎二

農林課農林係兼自然休養村管理センター (臨時雇) 主事補 塚原 守

車両管理室兼南大山村宿舎甘酒茶屋 (臨時雇) 運転手 藤原 明

(五月一日付)

・課長級
同和对策室長 (総務課長補佐、車両管理室長補佐兼総務課行政係長) 板井 久

教育委員会事務局出向 (同和对策室長) 末次 雅雄

・課長補佐級
総務課長補佐、行政係長兼車

両管理室長補佐 (総務課管財係長兼交通対策係長) 橋谷 郁子

総務課長補佐心得、管財係長兼交通対策係長 (保健課長補佐心得、衛生係長) 亀田 幸満

・係長級

保健課衛生係長 (教育委員会社会教育主事) 河上 英明

総務課行政係兼交通対策係 (同主事) 主任 遠藤 功

・主事級

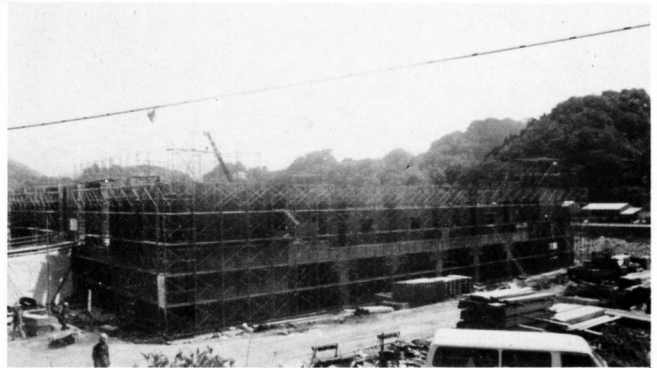
教育委員会事務局出向 (建設課管理係) 大田 敏朗

町長日誌

* 3 月

- 1日(月) 庁内会
- 2日(火) 全国自然休養村石塚事務局長来庁
- 3日(水) 中電俣野川発電所建設所転任者送別会
- 4日(木) 通産局宮崎調査官・下蚊屋役員来庁
- 5日(金) 母子・父子家庭中学生徒激励会、母子会役員会
- 6日(土) 国保運営委員会、助沢役員来庁、町婦人会研修会

▶56・57年度の2か年
 継続で建設が進めら
 れている町民総合体
 育館



▲完成した川筋地区簡易水道施設の水源池

年金保険料が

福祉向上に役立つ

国民年金の月々の保険料は、国庫に積立てられ、受給資格対象者に支給されるほかに、社会福祉の整備や住宅資金の貸付などに融資され、福祉向上に役立っています。

本町では、昭和五十六年度に年金積立金を一七、一四〇万円（うち継続分二、四四〇万円）借入れ、下表のとおり事業を行いました。

昭和56年度 年金積立金融資対策事業

事業名	事業量	事業費	内年金資金
川筋地区簡易水道	計画給水人口 872人	千円 201,705	千円 83,200
老人居室整備資金	5 戸	11,207	3,000
障害者住宅整備資金	5 戸	9,275	7,000
町民総合体育館	鉄筋コンクリート 2階建て 4,171.53㎡	158,070	78,200
計		380,257	171,400



▲障害者住宅資金で改築した便所

8日(月)	甘酒茶屋運営委員会、 議会運営委員会
9日(火)	西部同和対策問題研修 会、農業講演会
10日(水)	在庁
11日(木)	鳥取行政監察局長来庁
12日(金)	定例町議会招集(本会 議)
13日(土)	選挙投票準備
14日(日)	県知事選挙投票日
15日(月)	中学校卒業式
16日(火)	定例町議会(本会議) 右同
17日(水)	右同
18日(木)	議会常任委員会、森林 組合役員会、江尾碎石・ 尾ノ上原役員来庁
19日(金)	定例町議会(本会議)
20日(土)	小学校卒業式
21日(日)	江尾地区テレビ組合合 併総会
22日(月)	町婦人会総会
23日(火)	定例町議会最終日(本 会議)
24日(水)	宮ノ前・半ノ上・洲河 崎役員来庁
25日(木)	水田利用再編区長会
26日(金)	保育園卒園式、江尾財 産区会
27日(土)	NHKテレビ収録(鳥 取)
28日(日)	佐川集会所しゅん工式
29日(月)	和牛部総会
30日(火)	明德学園修了式
31日(水)	過疎地域対策協議会総 会(鳥取)

晴れの「明德博士号」



井上町長から修了証書を贈られる修了生

明德学園修了式

三月三十日、日輪閣で明德学園修了式が行われ、八十六歳の松尾真吉さんを最高齢者に、八年間で決められた単位を習得した、四十九人の学生に今年初めて晴れの「明德博士」の称号が贈られました。

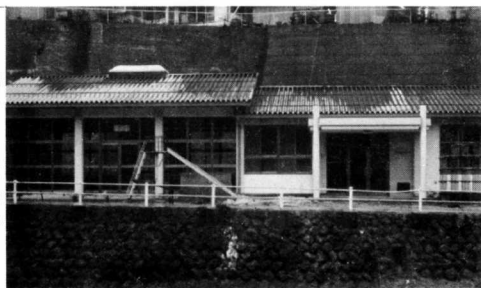
井上理事長は「より磨かれた個々の教養と尊い経験を後輩に教えて下さるようお願いいたします」と述べ、修了生を代表して自治会長・砂口鶴寿さんから「健康な身体を礎石土台として、やる気充分の精神力で、第二の人生の悔のない残務処理を行い、心豊かな学生であり、町民として社会に役立つことを心がけます」

と謝辞がありました。そして式の後、学生自治会によるアトラクションが行われ、和やかなひとときを過ぎました。

待望の児童館が完成

図書室も完備

本町五丁目目に建設が進められていました。明道児童館がこのほど完成し、四月二十七日、井上町長ら関係者約三十人が出席



完成した明道児童館

して完成を祝いました。地区を代表して区長・仲嶋勝利さんは「人づくりの場、仲間づくりの場として活用し、明日の時代を築くよりよき若き人々を輩出させるため、地区みんなの力を結集し、精一杯の努力をします」とお礼の言葉を述べました。完成した児童館は、鉄骨平屋建て、面積一九九・九〇平方尺、総事業費は二、六〇〇万円。施設は、八〇平方尺の遊戯室をはじめ、集会所、事務室、図書室などが完備されています。また、玄関前には、ブランコ、スベリ台、ジャングルジムも備えてあります。

健 康



風しんが流行

国・鳥取県感染症サーベイランスの情報によると、今年も「風しん」が大流行する恐れがあるといわれています。風しんの典型的な症状は、

- ・二〜四日つづく38度前後の発熱
- ・顔や頭などにあらわれて三日間くらいつづく発疹
- ・後頭部・けい部・耳後部を中心に全身的にみられるリンパ節の腫れ

の三つがいわれています。風しんは決して伝染力の強い病気ではありませんが、患者のくしゃみやせきなどの飛沫によって感染します。元凶がウイルスなので、ウガイやマスクをしても防ぐことはできません。

風しんでこわいのは、妊婦がかかった場合、生まれてくる赤ちゃん

- ・生まれつきの白内障
- ・先天性心臓病
- ・難聴

などの異常があらわれることです。このため、将来妊娠の可能性のある女性として、昭和五十二年から中学校三年生（現在、中学校二年生に実施）の女生徒全員に予防接種が義務づけられました。

ワクチンは、種痘・ポリオ・麻疹などと同じく弱毒化した生ワクチンですが、その効果は95程といわれており、一度受ければ効果は半永久的に持続するとされています。そこで、問題になるのは、定期接種が義務づけられていない人で、現在妊娠中であつたり、これから妊娠を迎えようとする人たちです。このような人たちは、次へあげてますように、風しん抗体検査・予防接種が県内でも実施されていますので利用して下さい。なお、妊娠中の人は、主治医と相談して下さい。

風しん抗体検査

実施場所	実施日・時
米子保健所	毎週金曜日 午後1:00~2:30
根雨保健所	毎週木曜日 午前9:00~10:30 毎週金曜日 午後1:00~2:30
検査料金	760円(印かん持参)

予防接種

実施場所	実施日・時
国立米子病院	毎週金曜日 午後1:00~3:00
済生会 境港病院	毎週火曜日 午後2:00~3:00 (前日までに予約)
その他、篠原医院、日南病院、武田医院などでも実施しています。事前に医療機関と本人が直接交渉して下さい。接種料金は、この医療機関でも4,500円です。	

四月旬会報

雪洞に引かれて上る花の坂
下町に灯点る頃の桜かな

花むしろ子に担がせて登りくる
城山の赤ぼんぼりの花の景

咲き切らぬ花もぎ散らす雪風
風寒し寒しと花の坂下る

雷の一つ鳴りたる花の雨
やや暮れて花の白さの濃さ淡き

羽織もの持ちて夜桜見に行かん
ブラウスの枚は無理夜桜見

主婦といふ仕事離るる花一日
白木蓮ほぐれ暮色となりけり

井上 中山香

遠藤 満枝

岡田 朔風

加藤 泉翠

官能 千秋

清水 純子

— 5 月 —

保健行事

乳幼児相談

日時 昭和57年 5月20日(木)
午前 9:00~11:00
午後 1:00~3:00
対象 満1歳未満の乳児と満1歳
6か月未満児
場所 役場裏二階
内容 問診、身体計測、保健指導

1歳6か月児健康診査

日時 昭和57年 5月27日(木)
午後12:30~1:00(受付)
対象 昭和55年 9月、10月、11月
出生児
場所 日輪閣
内容 問診、身体計測、医師の診
察(内科・歯科)、保健指導

フッ素塗布

日時 昭和57年 5月27日(木)
午前 9:30~11:00
対象 昭和56年 9・10・11月出生児
場所 日輪閣

基礎体力づくりは乳幼児から

意欲をもって
育とうとする子、
これを助ける親。
健康や体力つく
りは、自らの責
任で行う習慣を
子供のときに身
につけてやりま
しょう。



保険料の免除

国民年金



国民年金には保険料を納めることが困難な
人に、保険料を免除する制度があります。
この制度を受けたい希望の人は、毎年新規に
申請する必要がありますから、印かんを持っ
て役場で手続をしてください。
ただし、年金を受けるようになったときに
は、この免除期間については正常な年金額の
三分の一額しか受取れないことをご承知くだ
さい。

健 康

＝食生活の原理に迫れ＝

井上町長が示唆

(食生活改善講座閉講式)

昭和五十六年度の町「食生活改
善講座閉講式」は、四月十二日午
前十時から土井之内会館で行い、
年間十一回の受講生十三名に田後
根雨保健所長から修了証、井上町
長から記念品が贈られ、受講者代
表の生田統子さんが「修得技術と
知識を社会に生かします」と、今
後の活躍を誓いました。
この式で井上町長は「食生活改
善の歴史をふり返って見ると、か

つては「栄養講習」・「食品公書
」そして現在の「減塩」などと常
に人の健康を保つための工夫が重
ねられてきた。したがって一度学
習すれば五年、十年通用するとい
うものではなく、今後も日々研究
される必要がある。

特に今日の食品は豊富で、いつ
でもどこでも容易に手に入るが、
本当の食べものを、自然の法則に
随って摂取しているか、という食
生活の原理に迫って欲しい。主婦
は家族の食事について絶えず心を
配って下さるが、利害先行の経済
機構では、目先がよくて売れれば
いい物がつくれ、売られてい
る。人間の健康を支える食品とは
何か、という本質の上に立って次
の課程を修め、広く町内に啓発し
て下さい」
と、極めて示唆に富む内容の式辞
を述べました。

昭和五十四年度から始められた
この講座の修了者は、今期を含め
四十四名、地域のリーダーとして
活躍を期待します。

昭和五十六年度の修了生は、次
の方たちです。

【江尾】 沖田小百合 小林厚子

小笠原春恵 生田統子 久代仲江
河内登洋子 足立好子 大岩と子

【宮市】 河上容子 末次 京

【助沢】 真壁千秋
【杉谷】 片山秀子
【下蚊屋】 筒井八重子

人の動き

◆お誕生おめでとう

(三月届)

佐川 角嶋 明香 充人 長女
 本四 安田 舞 純孝 長女
 貝田 森田 美穂 貞道 二女
 荒田 井上 千加 博 長女
 下蚊屋 筒井 範明 治基 長男
 武庫 加藤 潤也 清作 二男

◆ご結婚を祝します

真田 安利 小江尾
 松本 美鈴 日野町本郷から
 長尾 保 大河原
 森田富貴子 西伯郡淀江町から
 田淵 幸雄 米子市陰田町
 藤本 利子 江尾から

長者「こじき」の伝説

むかし宮市にこの地方一番の長者が住んでいました。親ゆずりの長者だったので、仕事もせず朝寝朝酒が大好きというなまけ者でした。

そんな長者でもいい夢をみるもので、ある夜白鳥が長者の夢にあらわれ、「学塔の城山にのぼり白南天の下を掘ってみよ、たくさんの黄金が埋めてある」と告げました。しかし、お金やたべ物に困らない長者はそのままにいました。すると今度は、長者の老母が同じ夢をみました。老母は翌朝さっそく長者の家族や下男を呼んで夢の話をし、息子の長者に掘りに行くようにすすめました。しかし長者は、「おれはこの地方一番の長者じゃ、ガツガツせえでもええわい」といって動こうとしませんでした。しかたがないので老母は近所の人に夢の話をし、人を連れて城あとにのぼりました。城山には夢にみたとおりの白南天があります。長者の老母は白南天の下を掘らせましたが、掘れども掘れども黄金は出てこない。老母は失望して家に帰りました。

その夜長者と老母は夢をみました。長者の夢は、酒を飲みながら白南天の下を掘ってみますと、黄金や宝物がみんな白鳥になって飛び去っていく夢でした。老母の夢は、白鳥が枕もとに飛んできて「せっかくのよい夢を人に話したから、黄金は白い鳥になって飛び去ったのです」と告げる夢でした。それから間もなく長者の財産は急になくなり、長者と老母はこじきになったといえます。

(江府町史から)

◆ごめ福を祈ります

佐川 清水 ゆき 85歳 由一宅
 新一 本高 幸子 52歳 親雄宅

香典返しとして

吉原 清水たか代殿 (夫正臣様ご逝去)
 佐川 清水 由一殿 (母ゆき様ご逝去)

ありがとう ございました

(3月中寄託分)

天野 義実 吉原
 石垣裕見子 溝口町福岡から
 松原 孝史 佐川
 丸瀬美代子 米子市角盤町から
 花倉 積 日南町豊栄
 大岩 由紀 下蚊屋から
 三浦 啓史 佐川
 渡辺 敬子 東京都世田谷区から
 関内 規史 江尾
 田中 広美 山口県小野田市から
 篠田愛治郎 小江尾
 横尾 和美 東京都中央区から
 河野 道哉 兵庫県尼崎市
 篠田 照美 小江尾から
 青山 喜一 島根県松江
 岡田 裕子 江尾から
 田枝 定良 武庫
 室(園美智代) 鹿兒島県日置郡から

本一 勝部 喜代 87歳 敏之宅
 日の詰 藤 うめよ 83歳 邦雄宅
 本四 江本 房枝 69歳 徹宅
 杉 田 愛二 83歳 正宅
 本四 鎌倉 小蝶 84歳 小蝶宅
 深山口 下原きくよ 85歳 弘道宅

内祝として

貝田 池田敏治殿 (父福重様ご逝去)
 本一 勝部敏之殿 (養母喜代様ご逝去)
 新一 本高親雄殿 (妻幸子様ご逝去)
 日の詰 藤 邦雄殿 (母うめよ様ご逝去)
 小江尾 篠田光雄殿(ご本人様退院)
 貝田 谷田英里香殿(ご本人様退院)
 本四 芦立弘子殿(ご本人様退院)
 以上、社会福祉事業にご寄付いただきました。厚く御礼申し上げます。江府町社会福祉協議会

善意銀行受払報告

- 2月末累計額 2,052,191円
- 3月中寄付額 284,091円 (内 訳)
 - 快気祝 163,000円
 - 香典返し 105,000円
 - その他 16,091円
- 支出額 需用費 300円
- 3月末累計額 2,335,982円